

ホテル勤務で「引き出し」補充

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(53)——草津市

はい上がる人

わたしの歩跡

NHK連続テレビ小説「べっぴんさん」(2016年度)が

終わって、自分の頭の中にある

小さい引き出しに、蓄積してき

た芝居のアイデアがちょっとな

くなっているなって感じて。酔

っ払いでも何種類かあって、今

回はこれとこれを足した酔っ払

いにしようってやるんですけ

ど、いろんな役をやっって出し

くした感が強くなって、吸収せ

なあかんわって思ってたんです。

△始めたのが、畑違いの琵琶

湖マリオットホテル(守山市)

スポーツ棟での受付業務だっ

た。当時の支配人が私立比叡山

無理と思っていた僕が、春には

流ちょうに説明するようになって、

向こうが話すのをしっかり

聞いて、なんかの単語が出てき

たな、たぶんこのことを聞いて

いるなど片言で返して。

数年後に英語の芝居が来たど

しても、全然難しいことあらへ

ん。引き出しに入れてるのは、

片言しかしゃべれない日本人。

今の自分の姿を自分に覚えさせ

ているんです。みんながおもし

ろがってくれる芝居になる。

二つ目はナレーション。プラ

ネタリウムの上映があるんで

す。チケットを切って、各パター

ンのアナウンスをして、上映が

始まるんです。朗読劇もやらせ

てもらって、後で録音を聞いて

みたら、まだまだだったんです

ね。聞いている人が状況がすぐ

に浮かぶようにしないと。ええ

経験できたな。CMやナレーシ

ョンの仕事が来ても行けるな。

三つめは受付業務。人間観察

にはもってこいの場所なんです。

お風呂に行くのに「はきも

のを脱いでくださいな」って言

っても、「スリッパやったらえ

人間観察し語りも勉強

客が「いいお湯でした」って声

を掛けたら、見ている人にお湯

の情感や良さが伝わる。そつい

うことも引き出しに入れるんで

す。人を演じるので、いろんな

人が自然といることが一番

ほしいんです。

役者を十数年やったら、て

んぐになるところもあったんで

すけど、ホテルで働いてみたら、

昔を思い出して襟を正しました

ね。目の前にあることを一生懸

命やっつけど。絶対見え目が回

ってくるでって、なんとなく天

から聞こえてきたんですね。

△ホテル勤務は約1年間続

け、引き出しを再び補充した

【編集局・大澤重人】

――全34回、水曜掲載

もぎりも担当

半球形のドーム内の照明

が消され、ピンスポットが

当たる中、ドンペイさんは

サンタさんなど4役を演じ

分けた。開始前にはスタッ

フがいないと見るや、もぎ

りも担当し、終了後は来場

者との記念撮影に気軽に応

じた。

「ほんとにサンタさんい

るんだね！」——。ドンペイさんは

今年のクリスマス

の12月24日、当時勤め

ていた琵琶湖マリオットホ

テルのプラネタリウムイベ

ント「星空朗読劇」に出演

し、二十数人を前に約15分

の自作を披露した。



「星空朗読劇」でサンタさんなど4役を演じるドンペイさん。「声だけ聴いて状況を思い浮かべさせられるかが勝負」といういずれも守山市の琵琶湖マリオットホテルのプラネタリウムで



プラネタリウム入場者のもぎりも務めるドンペイさん